広島化成

脱炭素化対応を進める

笠岡工場で太陽光発電を導入

取引先からの要求強まる

化成品やゴム履物製造などの広島化成㈱（福山市松浜町2-2-11、宮地幹治社長、電084・922・7200）は、関連会社でゴム製品製造のHKK㈱（笠岡市港町、中濵幸廣社長）に太陽光発電システムを導入するなど、脱炭素化の取り組みを加速している。自動車用ドアの密閉ゴムやゴム製の建築資材を製造しており、主力の広島化成の福山市松浜町や南本庄町の工場でも古い設備の更新などでCO2排出抑制に力を入れる。

2019年に稼働したHKKの屋根部分に115kwの太陽光発電システムを導入し、年間で52tのCO2を削減させる。ほか、広島化成の松浜工場では蒸気用ボイラーを重油からCO2排出量の少ない都市ガスを使用するタイプに変える設備投資も実施した。

サプライチェーン（製造供給網）への脱炭素化要求は2050年に向けて強まる見込みで、広島化成では2030年に18年比で46%のCO2削減を指針に掲げる。工場内のフォークリフトの電動化を含めて、古い設備の更新を進める考えだ。

笠岡市港町のHKKに太陽光発電システムを導入した